

シーン4

「ウェーイw チーメン見てるー？ w w w あ、間違えた」

「元、チームのみんな、ほら、センパイもあいさつあいさつ♡ アタシ達のビデオのお客さんなんだから、とってもエッチに挨拶しないと……」

うーん、まだ、心が折れてないかい、まあ、嫌がるセンパイをアタシのおちゃんぽでお仕置きしてあげるのも、人気がたいだし、別にいいかぁ。くすす」

「それじゃ今回も、元チーメンのみんなにも楽しんでオナってもらおうね♡ センパイはちょーっち、おとなしめだけど、ただ恥ずかしがってるだけ♡ カメラがないところではひいひい喘いで、お尻で感じまくってるんだよ♡」

「くふふ、リハーサルのときのアクメっぷりって言ったら、マジで、ウケるぐらい、凄かったし♡ ね、センパイ♡ もう洗脳もほとんど完了ってカンジかな？」

「けど、最後に堕ちてるところ、元仲間のみんなに見てほしいし？ せっかくなので、次に中出し射精されたら完全にメス穴人間に書き換えられるようにちょーせーしてるんだよ♡♡」

「司令くん、後輩ちゃん、それに他のメンバーのみんな、センパイがちゃんとメスに、正確には、怪人メス穴人間に堕ちちゃうところ、しっかりと見ててね♡♡」

「はい、センパイ。四つん這いになって、お尻をこっちに向けて。そうそう、すぐに言うこと聞いてくれたね。こういうところから、センパイの洗脳はしっかりと進んじゃってまーす♪」

「さて、どんどん行ってみるよ」

「それじゃあ、まずはアナルの感じから。指先で、こうやって、んしょ、んしょってほぐすと、くふふ、ローションもつけてないのに、肛門がほぐれちゃって」

「アタシの指を簡単に、ずぶぶって、受け入れちゃいます」

「すっごいよね、中からは、ふたなりチンポを欲しがって、さらさらの腸液が溢れてきてるし」

「ちよっと人指し指で、ずちちゅずちゅ、って抜き挿ししたら、透明なおねだりのお汁がたっぷりと手のひらに溜まってきちゃう♡ あはあ、これぞメス穴って感じだよねー♡」

「あんなに立派なリーダーだったのに、もう、オチンポの受け入れ準備OKってカンジみたいだし」

「ね、センパイはもう立派なメス穴人間だよな？ ねえってば？ あれれ、返事は？ まだ否定しちゃうんだ」

「こうやって、指をんしょっと、二本入れて、じゅぶじゅぶしても、まだ余裕のあるぐらい、アナル拡張されちゃってるのに……」

「もうお尻の中の、綺麗な粘膜まで、みんなに丸見えだよ♡」

「くふふ、二本指を抜いたり、入れたり、こうやってすると、わぁッ、肛門がいやらしく裏返っちゃって……みんな、これがセンパイのお尻の内側でーす♡」

「あ、センパイもお尻、振ってるね。ほら、これが落ちてる証拠。口ではだんまりだけど、男は黙って態度で示すんだよ」

「お尻ふりふりして、アナルへの指ピストンで、ひいひいよがっちゃって、センパイ、可愛い♡ お尻の穴もヒクヒク蠢いてえ、指にきゅっきゅって吸いついてきてる」

「これってオチンポからザーメンを吸い出そうとするのと、おんなじ動き♡」

「身体はしっかりと、アタシのふたなりチンポを欲しがっちゃってるんだよね♪」

「二本指を、フックみたいに曲げてっと、前立腺をぐりぐり刺激しながら、お耳も舐めちゃうね」

「センパイ、前の時も、耳舐めして、すっごく感じてたよね♡ 今度は我慢しないでいいよ、お尻でこれだけ感じてるんだし。耳ではあはぁ喘いでも、全然、おかしくないよ」

「くふっ、男らしくメスに堕ちちゃえ♡ 前と同じように前立腺を責めながら、ん、ん♡ センパイのお耳をいただきます」

「今度は、右のお耳の穴を、ふーふー、あ、感じてる、感じてるね♡ 耳の感度も、だいぶ開発されてきたってカンジ？ 少しずつ舐めたりもいいけど、今は、んちゅぶ、ちゅばッ♡」

「いきなりベロでピストンしちゃうよ、れろ、れろ。唾液もたっぷりとまぶして、耳の穴を、ちゅぶちゅぶ、んちゅぶ♡ ほら、奥のほうまで、ちゅぶじゅぶ、んちゅうッ♡」

「ちゅちゅ♡ ちゅるっ♡……じゅるっ♡ じゅぽ♡ じゅぶぶ♡……んちゅ♡ ちゅ♡……れろ、れろれろ♡……ん♡ んーっ、んちゅ♡……ちゅぽっ♡」

「やっぱり耳、感じるんだね？」

「今度は素直になって、いっぱい喘いで、よがっちゃって♡ そうしないと、アタシも責めがないしき。んちゅばちゅば♡ お尻をぐりぐり混ぜながら、お耳を犯すの最高♡ ちゅばッ♡」

「耳でアナルまでいやらしく反応するのも一緒にカンジ？ けど、んんッ、肛門の締めつけ、すっごくキツくなって、身体がどんどんいやらしいメスになっているの丸分かりますね」

「センパイのメス化がアナルの締めつけでわかるって、結構、大発見かも♡ 画面の向こうのチーメンのみんなに伝わらないの、ちょっと残念すぎー♡」

「もつとベロを激しく、んちゅぶッ、ちゅぶッ、混ぜ混ぜしちゃう♡ これで、もつと気持ちよくなって♡ んじゅぶぶッ♡」

「んちゅ♡……ちゅちゅ♡　ちゅるっ♡……じゅるっ♡　じゅぼ♡　じゅぶぶ♡……んちゅ♡　ちゅ♡　最後はセンパイの耳を丸ごと咥えてえ、あむあむしまーす」

「あむ、はむう……これでえ、センパイの耳はアタシの唾液まみれ♡　マーキングもばっちりだよ。くすす」

「じゃ、次は左のお耳♪」

「ね、お耳、ひくひくして、もう期待してるの？　ふーふー、って息噴きかけて、あ、今、エッチな声出したよね」

「息だけで軽くアクメったり、してないよね？」

「それじゃ左の耳穴も、ツユダクのベロで混ぜませするね。んちゅぶ、ちゅぼ♡　くふふ、舌で耳の中までレイプされて、メスみたいに喘ぐセンパイ好き♡」

「もっと、声出して、よがれるように、どんどん奥へ舌を入れてえ、んれろお、じゅぶぢゅぼッ、んじゅぶ♡」

「じゅぶぶ♡……ちゅぼっ♡……じゅるっ♡　じゅぼ♡　じゅぶぶ♡……ずちゅっ♡　んぶっちゅ♡　いっばひ、ピストンしていくよ♡　ぢゅぼじゅぼ♡」

「センパイのメス声、耳を責められて、はあはあしてる声、最高♡　もっと鳴いて、いやらしすぎる声、聞かせて♡　ぢゅぼ、ぢゅぼッ♡　耳の一番、奥まで、じゅぶじゅぼ、んぢゅぼッ♡」

「耳の穴はもう完全にメスだよ、ね、センパイ。ベロでめちやくちやに犯されて、ひいひい喘いじやってほら、もっと気持ち良くなれ、堕ちちゃえ♡　耳舐めで、メスになっちゃえ♡」

「こっちのお耳も、丸ごと咥えてえ、あむあむしちゃうね。はむ、あむッ……これで、センパイの両耳はアタシの唾液まみれ♡」

「もうセンパイはお尻の中も、メスイキ姿も全部、みんなに見られちゃって、ほとんどメス穴人間なんだよ♡　はむう♡　それ以上、抵抗なんて意味ないし♡　アタシ、堕ちちゃったセンパイ、見たいな」

「アタシは怪人になっちゃってるし、センパイも堕ちてヒーローやめても一人じゃないよ、んちゅぶ、ちゅぼ♡」

「ちゅぶぶ♡……ちゅじゅっ♡　ずちゅるっ♡……じゅぼっ♡　じゅぼぼっ♡……んちゅ♡　ずちゅちゅ♡　はふ、これぐらいで耳責めはおしまい」

「だって、センパイ、マジで半落ちしてたし……最後はさ、あふ♡　このアタシのふたなりデカマラで、天国へ送ってあげる♡」

「ね、どうするか、わかってるよね。メス穴人間なんだから、無理矢理入れられるなんてダサイよね」

「一番、スマートなやり方をみんなに見せてあげよ。うん、そうだよ。くふふッ、最高に上出来すぎ♡」

「お尻を自分から突きだして、そうそう、アナルを差しだすのが、メス穴人間のポーズだよね♡」

「正義の味方のリーダーだけあって、センパイ、マジ飲み込み早すぎ♡　じゃあ、おねだりしてくれたセンパイの中に、んんッ、マラピーちゃんのだなりチンポお、突きこんじやいまーす。んうううッ」

「さ、センパイ、もつと息を吐いて」

「うん、そうだよ、ラクにして。自然体でオチンポ受け止めないと、お尻の穴、壊れちゃいますよ、んふお、んふおッ♡」

「ハアッ、ハアッ♡……ふぁッ♡……んっ、んあっ、はう♡……ふっ、つふあ、んんっ……はあ、はう♡……ふー、ふーっ♡」

「お尻のなか、ん、んん、少しぐちゅぐちゅって混ぜてあげるだけで、もうよがっちゃって、んふ♡　チンポで貫かれるカンジはどうですか？」

「メス穴に犯される悦びを、正直にみんなに伝えてください。ちゃんと言えたら、デカマラのご褒美、たっぷりあげますよ♪　んふ♡」

「ほら、カメラに向かって」

「あは、言えましたね。さすがはセンパイ♡　これで、センパイは身も心もメス穴人間ですよ♡」

「もう、アへってないで、カメラを切り替えてズームにしますから、涎を垂らして、だらしなくアへ蕩けきった顔を、みんなに見せてあげて♡」

「くふふ、こうやって中をぐちゅぐちゅって、かき混ぜられるの気持ちいいんだね」

「センパイはもう素敵なメス穴人間だもんね。んう、んう♡男なのにお尻でよがっちゃうマジだって、卑下しないでいいんだよ♡　立派なアナルの、改造人間なんだし♡」

「あひ、あひい、センパイのメス穴、マジ最高すぎいい♡」

「センパイも良すぎて、いやらしい腰振りダンス、止められないんだ」

「アナルをぐちゅ混ぜにされて、オチンポも暴発しそうなぐらいそり返って、あとちよつと、出しちゃいそうだね。オチンポの中にもたっぷり濃厚な精液、ぐつぐつ溜まっちゃってるのかな？」

「奥から出たい出たいって、ぎとぎとのせーしが上がってきちゃってたり？　もうw　黙ってても無駄だってば」

「先走りもどっぶどぶ溢れて、床がぐしょ濡れだし。ビキビキにそり立ったチンポも、ビクビク震えて、限界なの見え見えだし、あは、出したくてたまらないって、切なそうな顔してる♡」

「ハア、ハア♡ ハアッ♡!!……くうっ！ んふう♡!!……んあ♡ ふあっ♡!!……っふあ、んんっ♡!!……はあ♡ はう♡ ね、前立腺のここ、気持ちいいんだよね。お尻振ってるのも、ここで感じて、びゆるるるって、お漏らし射精したいから、なんだよね♡」

「それなら、んう、んう♡ ほら、出せ♡ 出しちゃえ♡」

「アナルで前立腺、思い切り押されまくってえ♡ ザーメンミルク、出しちゃええ♡」

「チンポミルクをびゅっくびゅく、射精♡ ふたなりチンポに突かれてえ♡ どびゅどびゅどびゅ、びゅびゅッ、どびゆるるう、って！ ところでん射精、たっぷりしちやえーッ♡ んううーッ!!」

「あは♡ 出てる♡ センパイのオチンポから、ところでん射精しちやってるし♡ ほらッ、ほらほらほらあ♡ ずっとアタシ、ピストンするから、存分に射精しちやっていいよ♡」

「エッチなザーメン、ちょっと出しすぎかも。アタシのデカマラに思い切り突かれて、匂いも濃さも、申し分ない、最高のところでんができちゃったね♡ くふふ♡」

「でも、センパイがメス穴人間になるなら、精液なんていらないよね。代わりに射精が気持ち良くなる、お菓開発して、たまたまに入れてあげるね」

「ああッ、センパイの無駄打ち見ると、興奮しちやって勃起したふたなりマラ、もっと大きくなってきちやう♡」

「アタシの下半身にも、新鮮なザーメンミルク、たっぷりと溜まって、はふ、もういっぱいいっぱいかも。そろそろ、出しちやうし♡」

「あ、あっ、あー♡……ふぐう♡……ハアッ、ハアッ♡!! ふあッ♡♡!!……ん！ ふう♡！ ふうっ♡!!」

「う、うう、センパイのメス穴に、んんッ、出すッ♡」

「くうううーッ♡♡♡」

「この時のために、あふう……オナ禁して、たっぷりとチンポミルク、溜めてたんだから、んお、んお♡……♡ ほらあ、まだたくさん、出るよお、んふお……んおふお……♡」

「あああ、センパイのメス穴に出すの、幸せ、アタシ、本当にふたなり怪人になって、良かったあ……あ……ああ……止まらないでしょ、射精……あ、ふああ……これがアタシの気持ち♡」

「全部受け止めて、良くなって……あはあ……んふう……アタシの生出し、全部受け止めてくれたね、センパイ♡」

「あれ、どうしたの、緩みきったイキ顔のままで……ねえ、しっかりして♡ 最後にセンパイがメス穴人間になったことを、みんなに宣言して、教えてあげないとダメだと思うし」
「あーあ、センパイはぐったりしちやってるから、代わりにアタシがw ほら、ぴーすびーす♡ えーぶいビデオの締めは、出してもらった精液とイキ顔をアピールしてみんなのシコネタにならないと」

「みんな、見てー、センパイは完全敗北、完堕ちして、可愛くて、エロエロなメス穴ちゃんに、なっちゃいました♡」

「はいカメラに向かって、うん、そう♡　メス穴ちゃん、ピース、ピースw　アへ顔、ダブルピースでケツ穴から精液吹き出してる姿、とってもお似合だー♡　ウエーイ、ピーす
ピーす♡」